



2022年9月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2022年5月6日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社FOOD & LIFE COMPANIES
 コード番号 3563 URL <https://www.food-and-life.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水留 浩一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 小河 博嗣 TEL 06-6368-1001
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2022年9月期第2四半期の連結業績 (2021年10月1日～2022年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上収益 | | 営業利益 | | 税引前利益 | | 四半期利益 | | 親会社の所有者に帰属する四半期利益 | | 四半期包括利益合計額 | |
|---------------|---------|------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------------------|-------|------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年9月期第2四半期 | 140,257 | 17.8 | 9,572 | △27.0 | 9,046 | △27.1 | 5,589 | △28.0 | 5,588 | △28.5 | 6,529 | △22.7 |
| 2021年9月期第2四半期 | 119,042 | 10.1 | 13,114 | 59.2 | 12,414 | 57.5 | 7,760 | 52.7 | 7,811 | 53.6 | 8,445 | 64.3 |

| | 基本的1株当たり 四半期利益 | 希薄化後1株当たり 四半期利益 |
|---------------|-------------------|--------------------|
| 2022年9月期第2四半期 | 円 銭 48.26 | 円 銭 47.96 |
| 2021年9月期第2四半期 | 67.31 | 67.00 |

(2) 連結財政状態

| | 資産合計 | 資本合計 | 親会社の所有者に 帰属する持分 | 親会社所有者 帰属持分比率 |
|---------------|----------------|---------------|--------------------|------------------|
| 2022年9月期第2四半期 | 百万円 331,355 | 百万円 65,716 | 百万円 65,710 | % 19.6 |
| 2021年9月期 | 296,001 | 63,573 | 63,569 | 21.3 |

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|----------|-------------|----------|--------------|--------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| 2021年9月期 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 — | 円 銭 22.50 | 円 銭 22.50 |
| 2022年9月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 2022年9月期(予想) | — | — | — | 22.50 | 22.50 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の連結業績予想 (2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上収益 | | 営業利益 | | 税引前利益 | | 当期利益 | | 親会社の所有者に帰属する当期利益 | | 基本的1株当 たり当期利益 |
|----|---------|------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|------------------|-------|------------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 295,000 | 22.5 | 16,000 | △30.1 | 14,000 | △35.1 | 8,700 | △33.7 | 8,700 | △34.0 | 75.18 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|------------|--------------|------------|--------------|
| 2022年9月期2Q | 116,069,184株 | 2021年9月期 | 116,069,184株 |
| 2022年9月期2Q | 399,648株 | 2021年9月期 | 248株 |
| 2022年9月期2Q | 115,788,904株 | 2021年9月期2Q | 116,049,736株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|---------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 | 5 |
| (1) 要約四半期連結財政状態計算書 | 5 |
| (2) 要約四半期連結損益計算書 | 6 |
| (3) 要約四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| (4) 要約四半期連結持分変動計算書 | 8 |
| (5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 9 |
| (6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 10 |
| (セグメント情報) | 10 |
| (販売費及び一般管理費) | 12 |
| (1株当たり利益) | 12 |
| (重要な後発事象) | 12 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、10月に新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が解除され、段階的に経済活動が正常化しつつあったものの、新たな変異株の流行に伴い、人の流れや個人消費に落ち込みが見られ、コロナ影響の収束時期の目途が未だ立たないのみならず、原油価格の高騰やウクライナ情勢の緊迫化等も生じており、先行き不透明な状況が続いております。

外食業界におきましても、同様に新型コロナウイルス感染症や原油価格の高騰、ウクライナ情勢等の影響により引き続き厳しい状況となっております。

このような状況の中、当社グループでは、「変えよう、毎日の美味しさを。広めよう、世界に喜びを。」をVISIONとして、日々の食を美味しくすることで、お客様の生活や人生までゆたかにしたいという願いに向けて、商品開発、店内調理、安心・安全の取り組み及びサービスの向上に取り組んでまいりました。

また、業態別店舗数は以下のとおりであります。

[当社グループ業態別店舗数]

| 業態名 | 前連結会計年度末 | 出店実績 | 閉店実績 | 当第2四半期連結会計期間末 |
|----------------------------|----------|--------|-------|---------------|
| 国内：スシローブランド (テイクアウト専門店) | 610(15) | 31(10) | 1(1) | 640(24) |
| 国内：杉玉ブランド(FC) | 39(6) | 15(6) | 1 | 53(12) |
| 国内：京樽ブランド | 154(—) | 4 | 5 | 153(—) |
| 国内：回転寿司みさき・ 三崎丸ブランド | 106(—) | — | 4 | 102(—) |
| 国内：その他ブランド | 29(—) | 3 | 5 | 27(—) |
| 国内合計 | 938(21) | 53(16) | 16(1) | 975(36) |
| 海外：スシローブランド (テイクアウト専門店) | 59(1) | 12(1) | — | 71(2) |
| 海外：その他ブランド | 2(—) | — | — | 2(—) |
| 海外合計 | 61(1) | 12(1) | — | 73(2) |
| 国内外合計 | 999(22) | 65(17) | 16(1) | 1,048(38) |

() 内はテイクアウト専門店・FCの店舗数

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上収益140,257百万円（前年同期比17.8%増）、営業利益9,572百万円（前年同期比27.0%減）、税引前四半期利益9,046百万円（前年同期比27.1%減）、親会社の所有者に帰属する四半期利益5,588百万円（前年同期比28.5%減）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(国内スシロー事業)

緊急事態宣言が解除された2021年10月以降は一時的に消費者マインドに持ち直しの動きが見られたものの、2022年1月以降のオミクロン株の感染拡大により、まん延防止等重点措置が再発令され、営業時間や酒類の提供時間を短縮した営業となりましたが、国内スシローでは、業績回復に向けた取り組みとして、「絶対王者スシローの鮪」フェアで、天然本鮪皿の販売や、「100円祭り」で、過去に人気のあった商品の復刻ラインアップの販売等を行いました。

また、コロナ禍で増加したテイクアウト・デリバリー需要に対応するため、デリバリー対象店舗を拡大すると共に、テイクアウト専門店の新規出店も継続的に行いました。

以上の結果、国内スシロー事業の売上収益は112,340百万円（前年同期比1.8%増）、セグメント利益は9,197百万円（前年同期比32.7%減）となりました。

(海外スシロー事業)

新型コロナの再拡大による飲食店への営業規制が各国・地域において続く中、2021年9月に初出店した広州（中国大陸）では、3月末時点で4号店までオープンしました。その他の地域においても、アフターコロナを見据えて、台湾+2店舗、香港+2店舗、シンガポール+1店舗、タイ+4店舗と、新規出店を継続しました。

また、営業規制下ではあるものの、来店客数の維持・拡大に向けて、三貫盛（台湾）や、新春祭（広州市）等、魅力的な販促・マーケティング施策を各地域で継続的に実施しました。

以上の結果、海外スシロー事業の売上収益は15,249百万円（前年同期比93.6%増）、セグメント利益は196百万円（前年同期セグメント損失175百万円）となりました。

(京樽事業)

国内スシロー事業同様、コロナ規制下での営業でしたが、合併後のシナジー創出を目的とした施策（京樽テイクアウト専門店のスシローとのWブランド店への転換等）を継続的に実施しました。回転すし業態は、コロナの影響を受けながらも、2021年11月に「回転寿司みさき」にリブランディングする等、新たな施策に取り組みました。

また、売上向上に向けたインフラ整備の取り組みとして、テイクアウト事業向け商品の製造を担う「京樽 セントラルキッチン」では、江戸前すし製造ラインの生産能力をアップさせる等、稼働率向上の施策を実施しました。これらに加え、本社組織の統合、その後の業務の統合をすすめるなど、シナジー創出に向けた施策に継続的に取り組んでいます。

以上の結果、京樽事業の売上収益は10,768百万円（前年同期比-％）、セグメント損失は977百万円（前年同期比-％）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び資本の状況

(資産)

総資産の残高は、前連結会計年度末に比べ35,355百万円増加し、331,355百万円となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べ26,749百万円増加し、75,591百万円となりました。これは主に、資金の借入等により現金及び現金同等物が28,542百万円増加したこと等によるものであります。

非流動資産の残高は、前連結会計年度末に比べ8,605百万円増加し、255,764百万円となりました。これは主に、新店出店等により有形固定資産が7,374百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ33,212百万円増加し、265,639百万円となりました。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べ2,407百万円減少し、57,452百万円となりました。これは主に、営業債務及びその他の債務が2,861百万円増加した一方で、未払法人所得税が3,564百万円、引当金が1,643百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

非流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べ35,619百万円増加し、208,187百万円となりました。これは主に、社債及び借入金が32,014百万円増加したこと等によるものであります。

(資本)

資本合計は、前連結会計年度末に比べ2,143百万円増加し、65,716百万円となりました。これは主に、配当金の支払により2,612百万円、自己株式の取得により2,020百万円それぞれ減少した一方で、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上により5,588百万円増加したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ28,542百万円増加し、57,909百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、16,665百万円（前年同期比4.1%増）となりました。

これは主に、税引前四半期利益9,046百万円、減価償却費及び償却費10,945百万円の計上、営業債務及びその他の債務の増加が2,753百万円、営業債権及びその他の債権の減少が2,730百万円あった一方で、法人所得税の支払額が6,867百万円、賞与引当金の減少が1,583百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、8,801百万円（前年同期比26.2%増）となりました。

これは主に、新規出店等に伴う有形固定資産の取得による支出が7,372百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は、20,262百万円（前年同期比82.4%増）となりました。

これは主に、リース負債の返済による支出が7,142百万円、配当金の支払額が2,608百万円、自己株式の取得による支出が2,000百万円、長期借入金の返済による支出が2,005百万円あった一方で、長期借入れによる収入が34,000百万円あったこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の連結業績予想につきましては、国内では2022年3月においてまん延防止等重点措置が解除され、また国内外共に「ゼロコロナ」から「ウィズコロナ」への政策転換が図られつつあり（一部地域を除く）、経済活動を止めることなく新型コロナウイルス感染症へ対応していくという状況への変化を受け、2022年9月期第3四半期連結累計期間以降の合理的な見通しが可能となったことから、現時点において入手可能な情報をもとに算定し、通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（2022年5月6日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、景気動向等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年9月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (2022年3月31日) |
|------------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び現金同等物 | 29,367 | 57,909 |
| 営業債権及びその他の債権 | 15,004 | 12,383 |
| 棚卸資産 | 2,146 | 2,934 |
| その他の金融資産 | 442 | 505 |
| その他の流動資産 | 1,883 | 1,860 |
| 流動資産合計 | 48,841 | 75,591 |
| 非流動資産 | | |
| 有形固定資産 | 146,554 | 153,927 |
| のれん | 30,541 | 30,541 |
| 無形資産 | 54,634 | 55,146 |
| 持分法で会計処理されている投資 | 1,855 | 1,677 |
| 敷金及び保証金 | 12,182 | 12,758 |
| その他の金融資産 | 487 | 487 |
| 繰延税金資産 | 411 | 411 |
| その他の非流動資産 | 496 | 818 |
| 非流動資産合計 | 247,159 | 255,764 |
| 資産合計 | 296,001 | 331,355 |
| 負債及び資本 | | |
| 負債 | | |
| 流動負債 | | |
| 営業債務及びその他の債務 | 26,676 | 29,537 |
| 借入金 | 4,009 | 4,009 |
| 未払法人所得税 | 6,831 | 3,267 |
| リース負債 | 13,115 | 14,519 |
| その他の金融負債 | 1,419 | 793 |
| 引当金 | 3,377 | 1,734 |
| その他の流動負債 | 4,432 | 3,593 |
| 流動負債合計 | 59,860 | 57,452 |
| 非流動負債 | | |
| 営業債務及びその他の債務 | 46 | 48 |
| 社債及び借入金 | 58,896 | 90,909 |
| リース負債 | 96,094 | 99,339 |
| その他の金融負債 | 86 | 100 |
| 引当金 | 3,233 | 3,532 |
| 繰延税金負債 | 14,175 | 14,254 |
| その他の非流動負債 | 38 | 6 |
| 非流動負債合計 | 172,568 | 208,187 |
| 負債合計 | 232,428 | 265,639 |
| 資本 | | |
| 資本金 | 100 | 100 |
| 資本剰余金 | 15,755 | 15,704 |
| 利益剰余金 | 46,584 | 49,560 |
| 自己株式 | △0 | △1,919 |
| その他の資本の構成要素 | 1,130 | 2,265 |
| 親会社の所有者に帰属する持分合計 | 63,569 | 65,710 |
| 非支配持分 | 4 | 6 |
| 資本合計 | 63,573 | 65,716 |
| 負債及び資本合計 | 296,001 | 331,355 |

(2) 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日) |
|--------------------|--|--|
| 売上収益 | 119,042 | 140,257 |
| 売上原価 | △54,221 | △65,515 |
| 売上総利益 | 64,821 | 74,741 |
| 販売費及び一般管理費 | △52,823 | △66,925 |
| その他の収益 | 1,746 | 3,809 |
| その他の費用 | △631 | △2,054 |
| 営業利益 | 13,114 | 9,572 |
| 金融収益 | 121 | 212 |
| 金融費用 | △437 | △448 |
| 持分法による投資損益 (△は損失) | △383 | △289 |
| 税引前四半期利益 | 12,414 | 9,046 |
| 法人所得税費用 | △4,654 | △3,457 |
| 四半期利益 | 7,760 | 5,589 |
| 四半期利益の帰属 | | |
| 親会社の所有者 | 7,811 | 5,588 |
| 非支配持分 | △51 | 1 |
| 四半期利益 | 7,760 | 5,589 |
| 1株当たり四半期利益 | | |
| 基本的1株当たり四半期利益 (円) | 67.31 | 48.26 |
| 希薄化後1株当たり四半期利益 (円) | 67.00 | 47.96 |

(3) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日) |
|-------------------------------|--|--|
| 四半期利益 | 7,760 | 5,589 |
| その他の包括利益 | | |
| 純損益に振り替えられる可能性のある項目 | | |
| 在外営業活動体の換算差額 | 689 | 940 |
| キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値に係る純変動の有効部分 | △3 | — |
| 純損益に振り替えられる可能性のある項目合計 | 685 | 940 |
| 税引後その他の包括利益 | 685 | 940 |
| 四半期包括利益 | 8,445 | 6,529 |
| 四半期包括利益の帰属 | | |
| 親会社の所有者 | 8,497 | 6,527 |
| 非支配持分 | △51 | 2 |
| 四半期包括利益 | 8,445 | 6,529 |

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

前第2四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)

(単位: 百万円)

| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | その他の 資本の構 成要素 | 親会社の 所有者に 帰属する 持分合計 | 非支配持分 | 資本合計 |
|-----------------|-----|--------|--------|------|---------------------|------------------------------|-------|--------|
| 2020年10月1日時点の残高 | 100 | 15,747 | 35,156 | △0 | △95 | 50,908 | 13 | 50,920 |
| 四半期利益 | | | 7,811 | | | 7,811 | △51 | 7,760 |
| その他の包括利益 | | | | | 685 | 685 | △0 | 685 |
| 四半期包括利益合計 | — | — | 7,811 | — | 685 | 8,497 | △51 | 8,445 |
| 新株予約権の失効 | | | 3 | | △3 | — | | — |
| 株式に基づく報酬取引 | | | | | 155 | 155 | | 155 |
| 配当金 | | | △1,741 | | | △1,741 | | △1,741 |
| 所有者との取引額合計 | — | — | △1,738 | — | 152 | △1,586 | — | △1,586 |
| 2021年3月31日時点の残高 | 100 | 15,747 | 41,229 | △0 | 742 | 57,818 | △39 | 57,780 |

当第2四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)

(単位: 百万円)

| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | その他の 資本の構 成要素 | 親会社の 所有者に 帰属する 持分合計 | 非支配持分 | 資本合計 |
|-----------------|-----|--------|--------|--------|---------------------|------------------------------|-------|--------|
| 2021年10月1日時点の残高 | 100 | 15,755 | 46,584 | △0 | 1,130 | 63,569 | 4 | 63,573 |
| 四半期利益 | | | 5,588 | | | 5,588 | 1 | 5,589 |
| その他の包括利益 | | | | | 940 | 940 | 0 | 940 |
| 四半期包括利益合計 | — | — | 5,588 | — | 940 | 6,527 | 2 | 6,529 |
| 自己株式の処分 | | △30 | | 81 | △13 | 37 | | 37 |
| 自己株式の取得 | | △20 | | △2,000 | | △2,020 | | △2,020 |
| 株式に基づく報酬取引 | | | | | 208 | 208 | | 208 |
| 配当金 | | | △2,612 | | | △2,612 | | △2,612 |
| 所有者との取引額合計 | — | △50 | △2,612 | △1,919 | 195 | △4,386 | — | △4,386 |
| 2022年3月31日時点の残高 | 100 | 15,704 | 49,560 | △1,919 | 2,265 | 65,710 | 6 | 65,716 |

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前四半期利益 | 12,414 | 9,046 |
| 減価償却費及び償却費 | 8,433 | 10,945 |
| 減損損失 | 536 | 1,791 |
| 金融収益 | △89 | △172 |
| 金融費用 | 437 | 448 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | 1,013 | △1,583 |
| 敷金及び保証金の家賃相殺額 | 139 | 132 |
| 持分法による投資損益 (△は益) | 383 | 289 |
| 営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加) | △4,945 | 2,730 |
| 棚卸資産の増減額 (△は増加) | △202 | △774 |
| 営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少) | 3,043 | 2,753 |
| その他 | △1,460 | △1,678 |
| 小計 | 19,703 | 23,928 |
| 利息及び配当金の受取額 | 2 | 5 |
| 利息の支払額 | △340 | △401 |
| 法人所得税の支払額 | △3,349 | △6,867 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 16,016 | 16,665 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △6,021 | △7,372 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 252 | 0 |
| 無形資産の取得による支出 | △186 | △792 |
| 定期預金の預入による支出 | △294 | — |
| 敷金及び保証金の差し入れによる支出 | △706 | △669 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △52 | — |
| その他 | 31 | 31 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △6,975 | △8,801 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 社債の発行による収入 | 19,918 | — |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | 12 | — |
| 長期借入れによる収入 | 35,000 | 34,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △36,741 | △2,005 |
| リース負債の返済による支出 | △5,297 | △7,142 |
| 支払手数料の支払による支出 | △13 | △2 |
| 自己株式の取得による支出 | — | △2,000 |
| 新株予約権の行使による収入 | — | 24 |
| 配当金の支払額 | △1,739 | △2,608 |
| その他 | △32 | △6 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 11,109 | 20,262 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 20,149 | 28,126 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 12,665 | 29,367 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 210 | 416 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 33,024 | 57,909 |

(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

前第2四半期連結累計期間において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しておりました「賞与引当金の増減額(△は減少)」は、金額の重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より、区分掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書の組替えを行っております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に表示していた△447百万円は、「賞与引当金の増減額(△は減少)」1,013百万円、および「その他」△1,460百万円として組み替えております。

(セグメント情報)

①報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、主に事業別のセグメントから構成されております。

当社グループは、前連結会計年度までは、すし事業の単一セグメントのみとしていましたが、第1四半期連結会計期間より「国内スシロー事業」、「海外スシロー事業」、「京樽事業」及び「その他事業」に変更することに致しました。

これは事業展開、経営資源の再配分及び経営管理体制の実態の観点から事業セグメントを検討した結果、「FOOD & LIFE COMPANIES 2022年-2024年 中期経営計画」における重点事業として、上記のとおり報告セグメントへの変更に至ったものであります。

各報告セグメントに含まれる主要ブランドは以下のとおりであります。

国内スシロー事業：国内で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

海外スシロー事業：海外で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

京樽事業：株式会社京樽が運営する全ブランド(主要ブランド「京樽」・「回転寿司みさき」・「海鮮三崎港」)

その他事業：株式会社FOOD & LIFE INNOVATIONS が運営する全ブランド(主要ブランド「杉玉」)

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

また、京樽事業は、2021年4月1日より当社グループの連結子会社となった株式会社京樽及びその子会社2社に係る事業セグメントであり、前第2四半期連結累計期間においては当社グループにおける実績数値はありません。

②報告セグメント売上収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる売上収益及び業績は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間（自 2020年10月1日 至 2021年3月31日）

（単位：百万円）

| | 報告セグメント | | | | 合計 | 調整額合計 (注) 2 | 連結合計 |
|--------------------------------|-------------|-------------|------|-------|---------|----------------|---------|
| | 国内ス ロー事業 | 海外ス ロー事業 | 京樽事業 | その他事業 | | | |
| 売上収益 | | | | | | | |
| 外部収益 | 110,323 | 7,875 | — | 844 | 119,042 | — | 119,042 |
| セグメント間収益 | 71 | — | — | — | 71 | △71 | — |
| 計 | 110,394 | 7,875 | — | 844 | 119,113 | △71 | 119,042 |
| セグメント利益又は 損失(△は損失) (注) 1 | 13,660 | △175 | — | △602 | 12,883 | 231 | 13,114 |
| その他の項目 | | | | | | | |
| 減価償却費及び償 却費 | 7,031 | 1,101 | — | 153 | 8,286 | 148 | 8,433 |
| 減損損失 | 64 | 109 | — | 363 | 536 | — | 536 |

(注) 1. セグメント利益又は損失は要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額231百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

当第2四半期連結累計期間（自 2021年10月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

| | 報告セグメント | | | | 合計 | 調整額合計 (注) 2 | 連結合計 |
|--------------------------------|-------------|-------------|--------|-------|---------|----------------|---------|
| | 国内ス ロー事業 | 海外ス ロー事業 | 京樽事業 | その他事業 | | | |
| 売上収益 | | | | | | | |
| 外部収益 | 112,273 | 15,249 | 10,768 | 1,967 | 140,257 | — | 140,257 |
| セグメント間収益 | 68 | — | — | — | 68 | △68 | — |
| 計 | 112,340 | 15,249 | 10,768 | 1,967 | 140,325 | △68 | 140,257 |
| セグメント利益又は 損失(△は損失) (注) 1 | 9,197 | 196 | △977 | △370 | 8,046 | 1,525 | 9,572 |
| その他の項目 | | | | | | | |
| 減価償却費及び償 却費 | 7,853 | 1,908 | 821 | 185 | 10,767 | 178 | 10,945 |
| 減損損失 | 483 | 439 | 704 | 164 | 1,791 | — | 1,791 |

(注) 1. セグメント利益又は損失は要約四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額1,525百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日) |
|------------|--|--|
| 従業員給付費用 | 32,012 | 37,857 |
| 減価償却費及び償却費 | 8,416 | 10,899 |
| 水道光熱費 | 2,240 | 3,133 |
| 支払手数料 | 1,494 | 2,359 |
| その他 | 8,661 | 12,677 |
| 合計 | 52,823 | 66,925 |

(1株当たり利益)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日) |
|--|--|--|
| 親会社の普通株主に帰属する四半期利益(百万円) | 7,811 | 5,588 |
| 基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する普通株主に係る四半期利益(百万円) | 7,811 | 5,588 |
| 希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する普通株主に係る四半期利益(百万円) | 7,811 | 5,588 |
| 基本的期中平均普通株式数(株) | 116,049,736 | 115,788,904 |
| 希薄化後1株当たり四半期利益の計算に用いられた普通株式増加数(株) | 538,138 | 726,533 |
| 希薄化後の期中平均普通株式数(株) | 116,587,874 | 116,515,437 |
| 基本的1株当たり四半期利益(円) | 67.31 | 48.26 |
| 希薄化後1株当たり四半期利益(円) | 67.00 | 47.96 |
| 希薄化効果を有しないため、希薄化後1株当たり四半期利益の算定に含めなかった潜在株式の概要 | 新株予約権1種類 (普通株式8千株) | 新株予約権2種類 (普通株式70千株) |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。